

第三次丸亀市総合計画（骨子案）

令和7(2025)年10月
パブリックコメント資料

第三次総合計画について

- ・総合計画とは、行政運営の総合的な指針を示すもので、まちづくりの最上位に位置づけられる計画です。
- ・本市では、本年度終了する「[第二次総合計画（2018～2025年度）](#)」に引き続いて、来年度からスタートする「第三次総合計画（2026～2033年度）」の策定を進めています。
- ・第三次総合計画では、「[人口ビジョン（令和7年改訂版）](#)」、「[第3期未来を築く総合戦略](#)」、「[第5次行政改革プラン](#)」の内容を融合し、1つの計画として策定します。
- ・計画構成と期間は、これまでと同じ基本構想（8年）－基本計画（前期4年＋後期4年）に加えて、本年度から策定を始めた「[重要施策](#)」を実施計画（別冊で毎年度作成）に位置づけ、3層構成とします。

第三次総合計画策定のポイント

—コンセプト—

策定で終わらせない。市民と動かす その始まりとなる総合計画

—市民の共感を得る—

- ・ 将来像の再定義
→ まちの姿から人へと焦点を変え、意志を感じさせるものへ
- ・ 市民へのメッセージの作成
→ 計画策定、これからのまちづくりに込めた想いをわかりやすく
- ・ コミュニケーションフレームの開発
→ 一貫性のあるブランディング、官民のコミュニケーションに繋げる

—市民と動かす—

- ・ 毎年度の計画見直しを可能に
→ 「重要施策」を総合計画に位置づけ
- ・ 市民意見を反映した柔軟な見直し
→ 新たな市民意見聴取ツールの導入

章立て・各章のポイント

従来の「現状分析→施策」の流れから一新し、「丸亀の未来」から構想を描き、具体的な取組が見える化、体系化する基本計画、さらに基本計画を実現するための行財政運営について章ごとに整理。市民が共感しやすく、行動につながる構成へ。

章立て	各章のポイント
第1章 丸亀の未来(基本構想)	●基本構想 － 目指す将来像:人に焦点を当て、パーパス(存在意義)的な意味合いも含めたものに再定義 － メッセージ:市民の共感を得られるよう、計画策定に込めた想いをわかりやすく表現 － コミュニケーションフレームの開発: － 基本方針:6つの柱を軸とした「六方よし!」な総合計画へ
第2章 丸亀の現状と課題	●基礎調査 － 丸亀市人口ビジョン(令和7年改訂版):人口動態・人口の将来目標 ●第二次総合計画後期基本計画の検証 ●市民意見の聴取 － 「丸亀市総合計画」に関するアンケート結果等:前回調査との比較(市民満足度)等 － AIを利用した市民意見の集約と分析
第3章 未来をカタチにするアクション (基本計画)	●基本計画 － 計画の体系図(6の基本方針－17の基本施策－64の主要な取組) － ライフステージ別施策マッピングの実施 － 基本施策ごとに「現状」と「めざす姿」、KPI(アウトカム指標中心)を設定
第4章 未来を支える仕組み	●基本計画を実現していくための行財政運営 － 社会環境の変化に適応する行政運営 － 将来を見据えた健全財政の堅持 － 時代に合わせた自治体DXの推進 － 地域課題の解決に向けた広域連携の促進
第5章 みんなで動かすまちづくり	●計画の進行管理

第1章

丸亀の未来（基本構想）

丸亀は、ひとをイキイキさせるまち

共感を育むための市民へのメッセージ

(計画策定、これからのまちづくりに込めた想い)

総合計画の愛称

まるっ都！まるがめ

都市は、容れ物ではありません。生き物です。

そこに暮らす人のイキイキとした毎日が、まちの活気になっていく。

丸亀の未来をつくっていくのが子どもたちなら、

今を生き、未来を背中で見せてくれるのは、おとなたち。

子どもからお年寄りまで、もっともっと、

人と人が響き合い、育て合う、みんながイキイキするまちへ。

子育て、活力、住みやすさ、支え合い、みんなでアイデア、そして魅力発信。

ちょっといい！ちょうどいい！が、

まるっと！詰まった「六方よし」な都市づくり。

P11参照

丸亀市は、あなたといっしょに、まるっ都！計画を進めていきます。

「まるっ都！まるがめ」を進めていくために

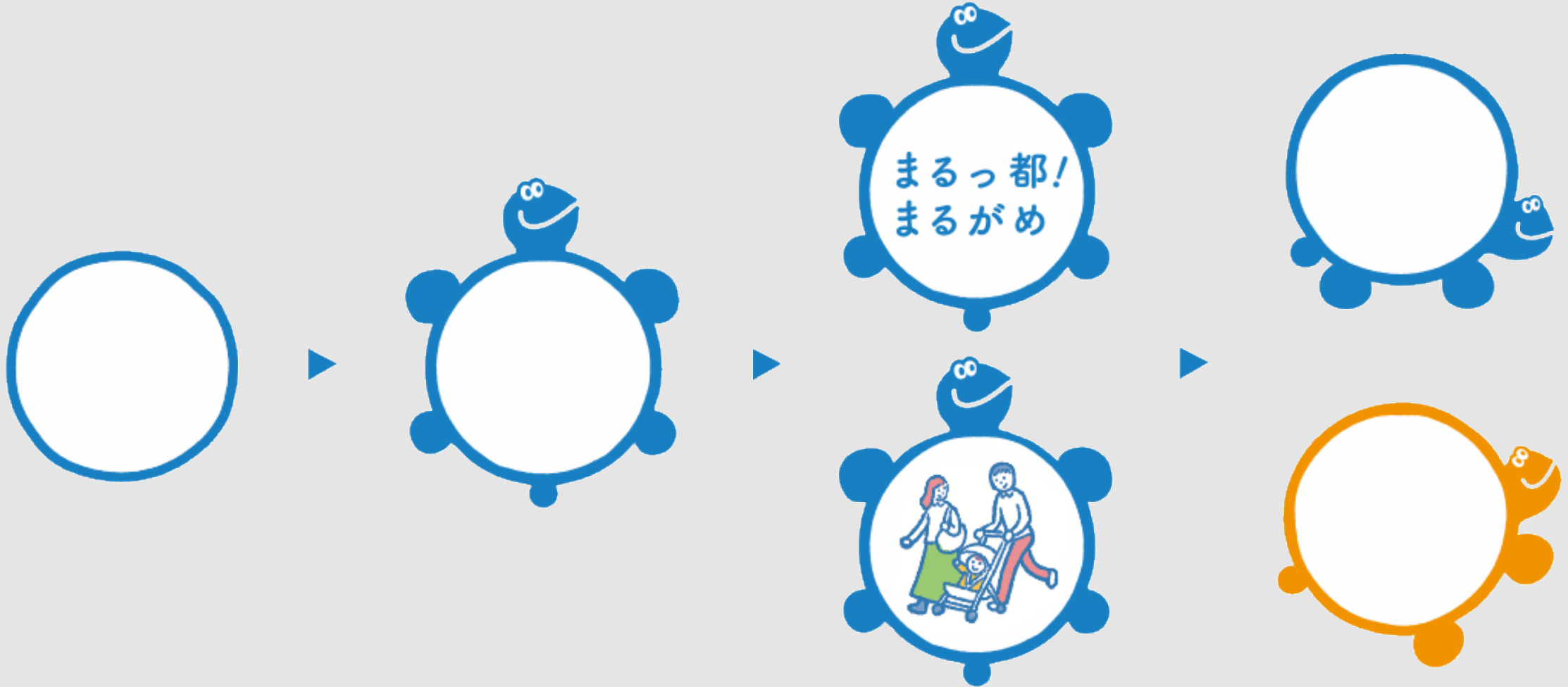
市民に愛される、より汎用性、展開力ある 丸亀市ならではのコミュニケーションフレームの開発

やわらかさ、ぬくもり、夢を描ける自由度。

市民目線で総合計画を伝える最適なデザイン手段は、イラストレーション。
しかし、単なるイラストでは他の自治体と似たような顔つきになる側面も。

コミュニケーションフレームとして機能しながら、
より汎用的に、ツールとしても拡張・展開できるような、
丸亀市ならではの「コミュニケーションフレーム」を開発します。

コミュニケーションフレームデザイン案



何もない時は、甲羅だけ(丸)

何か伝えたい時は頭や手が出てくる。

文字や、イラストが見える。

ポーズを変えたり、色も変化できる。

頭、尻尾、手足の位置によって、あらゆる角度から、丸亀市の魅力をまるっと！届けます

市民の日常生活の中に展開、市民との接点を創出します。

じわじわ、気づけば、市民の日常と共存するような関係性＝親近感の醸成に

※コミュニケーションフレームは、既存のキャラクターやこれまで幅広く展開してきた広報等と取って代わるものではありません。丸亀発の情報発信、シティプロモーションなどに統一性、一体感を持たせるためのツールとして活用するものです。

【活用の参考例】

ポスター



交通安全ステッカー



名刺フォーマット



ランドセルカバー



学生用名札



このコミュニケーションフレームには、
様々な場面に展開できる汎用性・拡張性があります

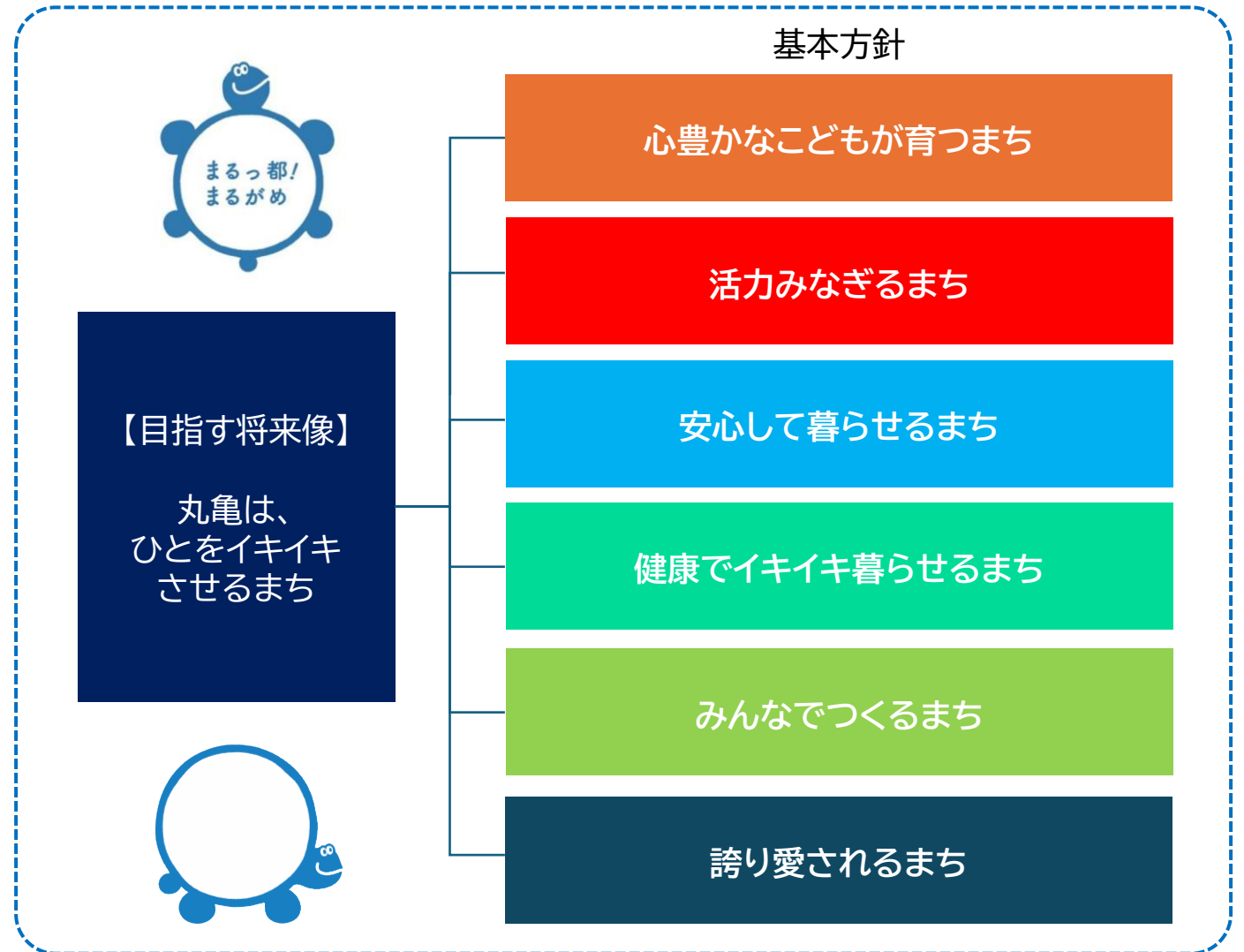


丸亀市の一貫性あるブランディング、人柄づくりに

基本方針

これまでの5つの基本方針+誇り愛されるまち（シティブランディング）を6つの柱と捉え、「三方よし」ならぬ、「六方よし」な総合計画として推進していきます。

目指すは、「六方よし！」な総合計画



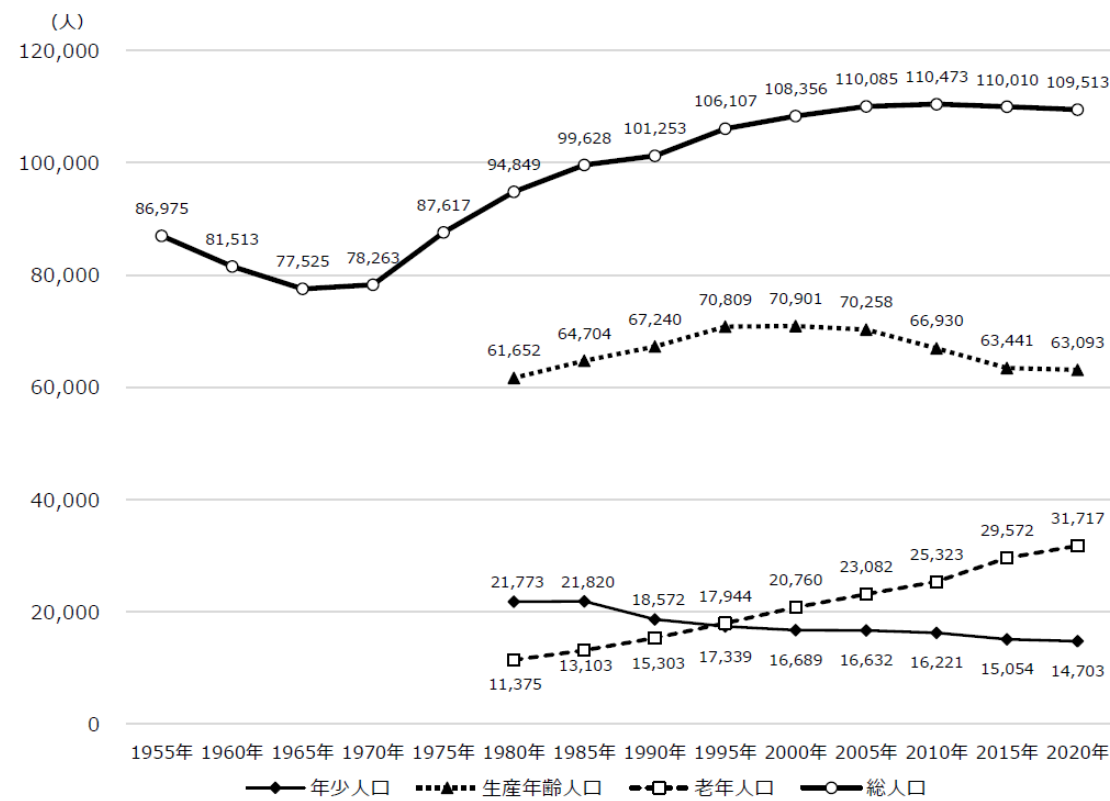
第2章

丸亀の現状と課題

基礎調査：人口動態（丸亀市人口ビジョンより）

本市の総人口は2015年国勢調査で減少に転じ、2020年では109,513人と減少傾向が続いています。近年の人口動態は、総体的に社会増（転入数が転出数を上回る）となっているものの、自然減（死亡数が出生数を上回る）の影響が大きいいため、人口は減少傾向となっています。

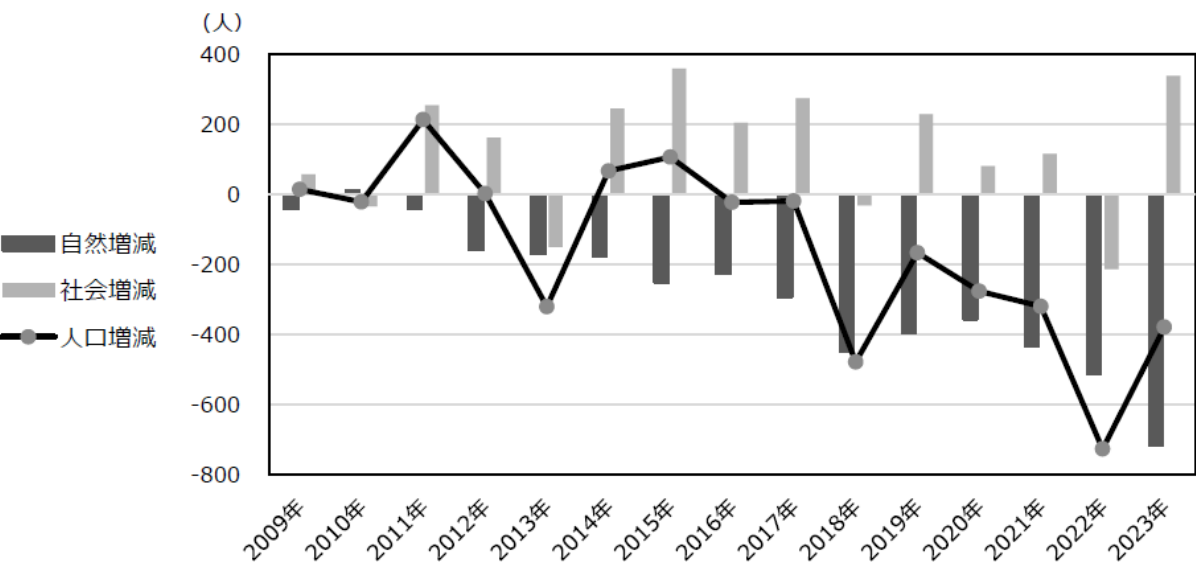
■ 総人口・年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査

※2000 年以前のデータは合併前の旧 1 市 2 町の数値を合計しています。

■ 自然増減と社会増減の影響（2009 年～2023 年）



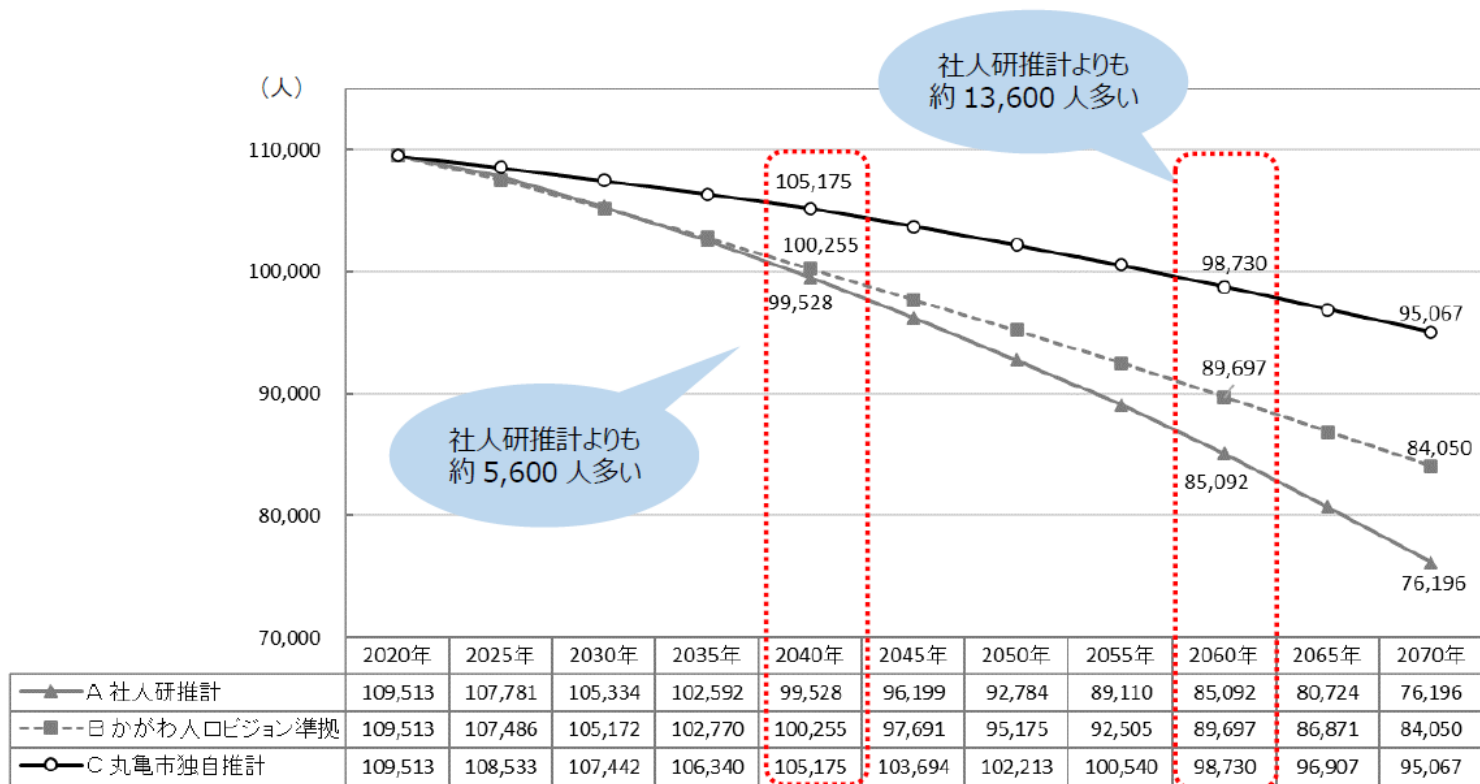
資料：香川県人口移動調査報告

基礎調査：人口の将来予測（丸亀市人口ビジョンより）

人口減少によって想定される影響を最小限に抑えるために、本市が将来目指すべき人口を示しています。社人研推計に準拠しながらも、合計特殊出生率を国の長期ビジョンと同じ仮定（2030年に1.80、2040年に2.07に到達）にするとともに、本市の強みである社会増の維持に向け、子育て世代（20～39歳）の社会増減率を社人研の+2%と仮定しました。

2060年 将来人口目標 98,730人

■人口推計と長期的な見通しの比較



第二次総合計画後期基本計画の検証

市役所内部における自己評価（内部評価）と、市の附属機関である行政評価委員会での外部からの視点による評価（外部評価）により、第二次総合計画後期基本計画を総括しました。まとめは以下のとおりです。

【評価結果 A：0、B：1、C：28、D：2、E：0】

• 基本施策15：商工業の振興【D評価】

産業教育は着実に充実が図られている一方で、労働政策については、抜本的な見直しと新たな展開が必要である。

• 基本施策24：スポーツの振興【B評価】

賑わいづくりの推進については、一定の成果が見られている。これからは、スポーツを通じた地域共生社会の実現を目指す必要がある。

• 基本施策29：地域コミュニティの活性化【D評価】

地域コミュニティと自治会のあり方について、今こそ抜本的な見直しを行うべきである。

内部評価



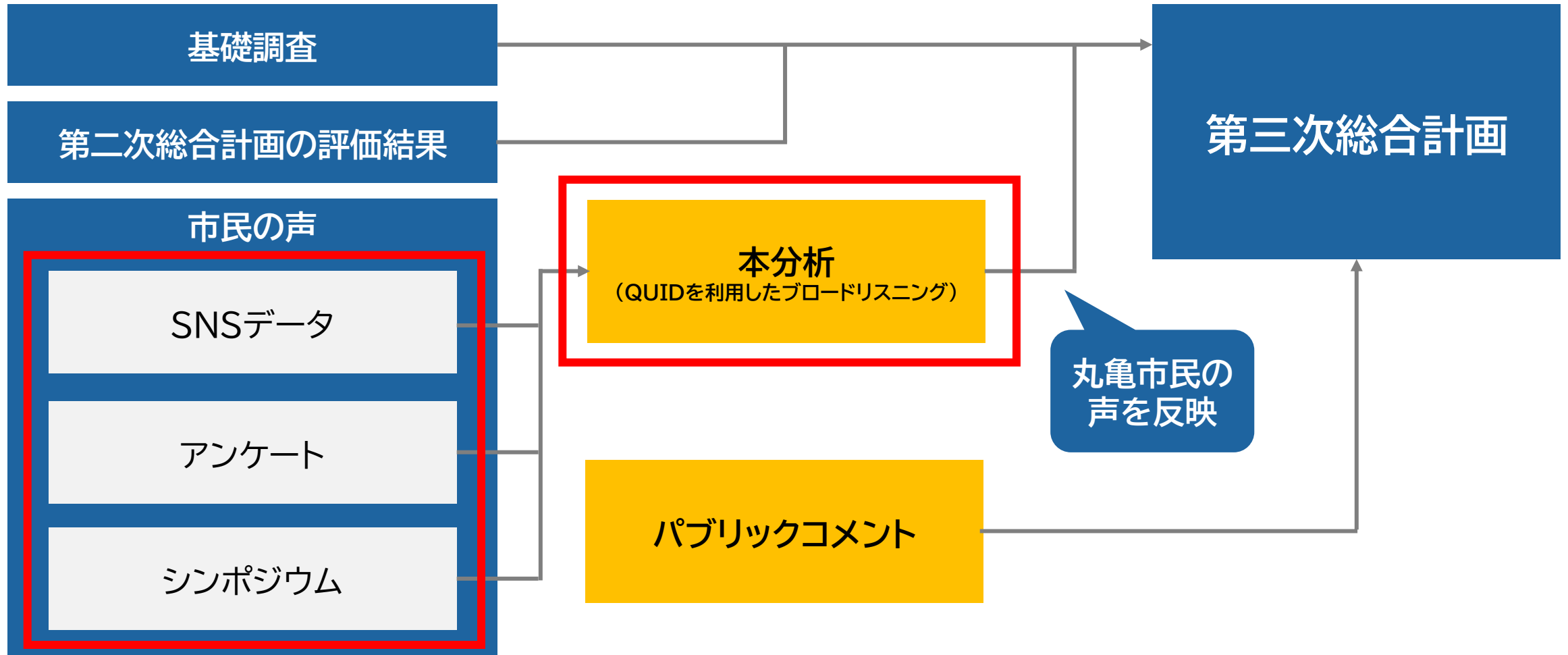
- 162 の成果指標の達成状況から、全体としては概ね順調に推移していると評価する。
- 現行の成果指標はアウトプットに偏っており、新たな総合計画では、市民満足度や行動変容など**アウトカムへ指標の転換**が求められる。
- 行政課題が複合化・多様化する社会情勢の中で、縦割り行政からの脱却を図り、部署を超えて同じ目標に向かって連携できるよう**「横串の視点」を明示的に組み込む**必要がある。
- とりわけ、中心市街地の活性化に向けた取組は不可欠

外部評価



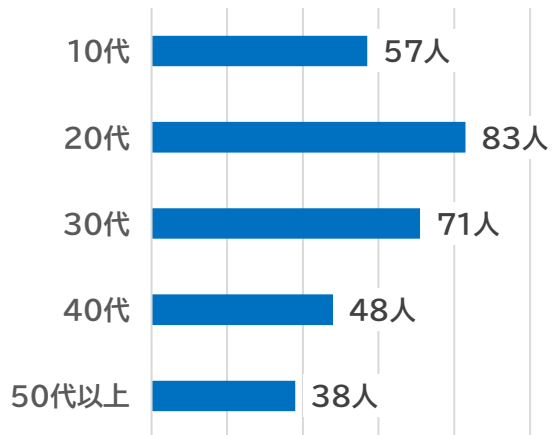
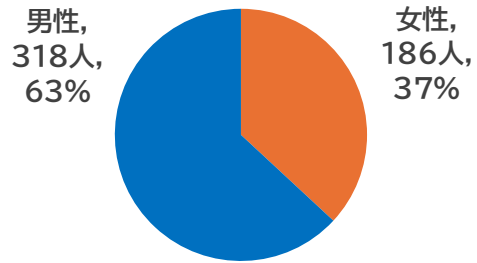
市民意見の聴取

基礎調査と第二次総合計画の評価に加え、多様な市民の声を丁寧に汲み取り、第三次総合計画の策定に反映していきます。

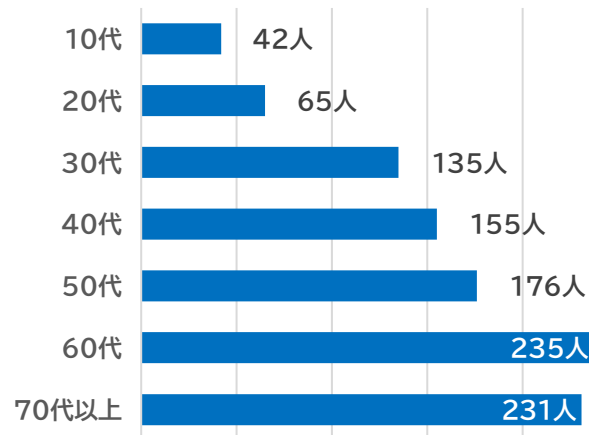
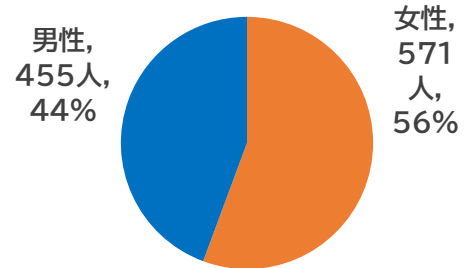


QUIDを利用したブロードリスニング 20カテゴリーの定量分析（傾向/デモグラ）

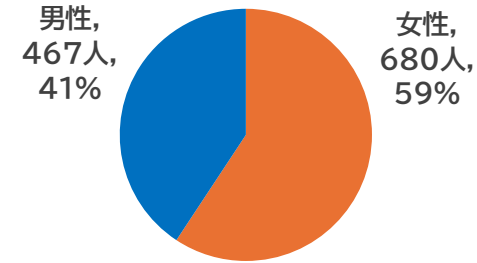
■SNSの指標



■総合計画アンケートの指標

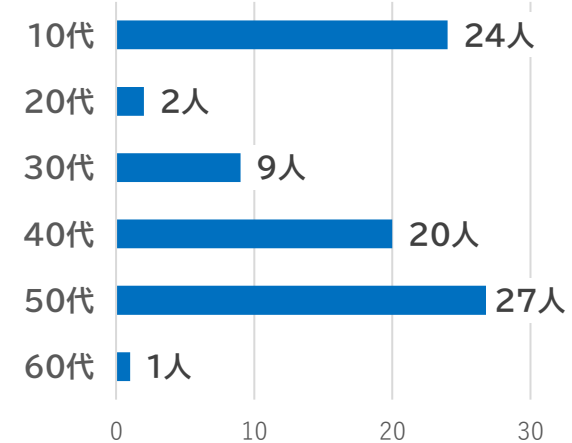
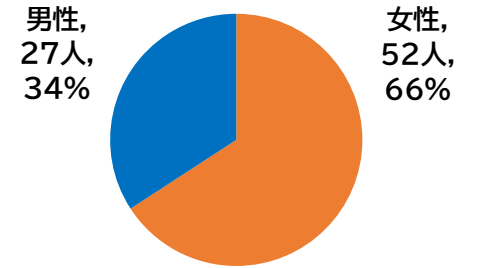


■若い世代の意識調査の指標



※若い世代の意識調査は20歳前後を対象に実施したため、年代グラフなし

■シンポジウムの指標



市民アンケートの分析結果 総合計画アンケート結果のまとめ

■ 回答者数

1,042 回答者	HP	18人
	オンライン	289人
	郵便	735人

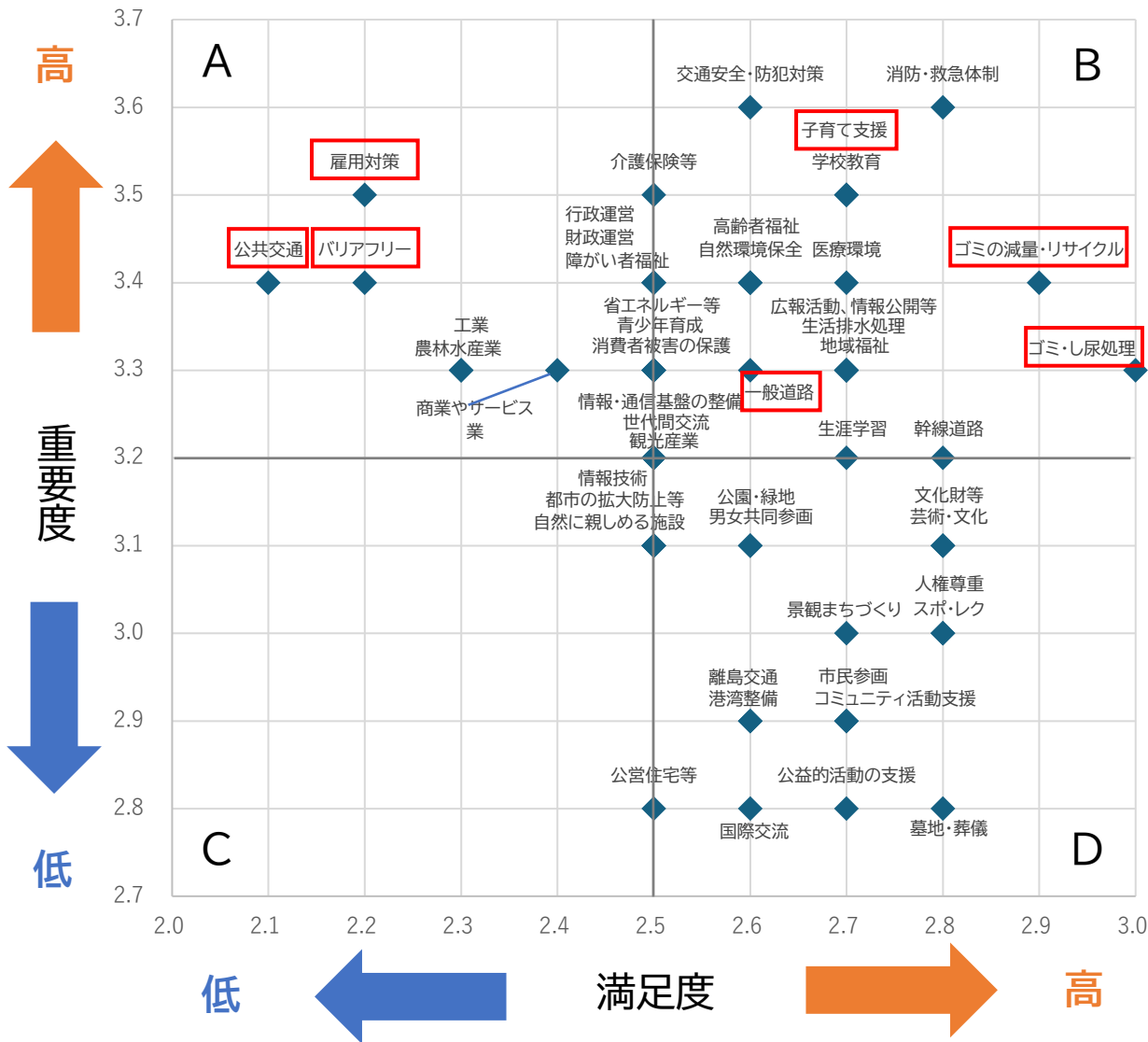
市民アンケート(16歳以上の3,000人等を対象)の結果に関するまとめは、以下のとおりです。

セクション	結果の概要
①あなた自身のことについて(Q1-4)	- 回答者の性別は男性44%、女性55%(その他1%)となっており、年齢は50歳以上が6割を占めている。 - 回答者の居住歴は10年以上が8割を占めている。
②丸亀市での生活について(Q5-8)	- 暮らし続けたいという住民は8割を超えていた。 - 丸亀市の魅力については「買い物など日常生活が便利」が前回に引き続き割合が高く、上昇していた。 - 不足している魅力については「趣味や娯楽の場が少ない」の割合が前回に引き続き高いが、「まちの魅力に乏しく、個性がない」「行政サービスがよくない」については前回から割合が低下しており魅力が向上している。 - 年齢別の居住継続意向では、16～19歳の「これからもずっと暮らし続けたい」が10.7%低下しているが、「いったんは離れても、また戻ってきたい」が25.0%増加している。
③若者の地元定着・地元回帰について(Q9-11)	- 若者が地元に戻ることの障壁として、働く場所の少なさが4割以上を占めており、ほかにも娯楽や余暇の楽しみの少なさなど、都会と比較したときの魅力のなさが挙げられていた。 - 必要なものとしては、上記同様に働く場所のほかに子供を育てられる環境やイベントの充実が挙げられていた。 - その他の自由記述の意見としては、若者が充実した生活ができる環境(職場、娯楽、将来設計)や大学や就職先などの高校卒業後の進路に関するものが挙げられていた。
④丸亀市の取組の現状と今後について(Q12)	- 満足度が低く、今後の重要度は高いとする意見が多い分野(重点改善分野)として、「雇用対策/公共交通/バリアフリー/工業/農林水産業/商業やサービス業」が挙げられている。 - 前回調査時の重要項目(赤枠)については「ゴミの減量・リサイクル」「子育て支援」で満足度向上が見られ、そのほかの5項目では満足度低下が見られた。
⑤人口減少対策について(Q13)	人口減少を止めるための意見として、子育て世代や若い世代に対して今以上に支援策を充実させることや、県外流失を止めるための対応策として学校・職場を充実させ、地元へ戻りやすくするなどのに関する意見が見られた。

市民アンケートの分析結果

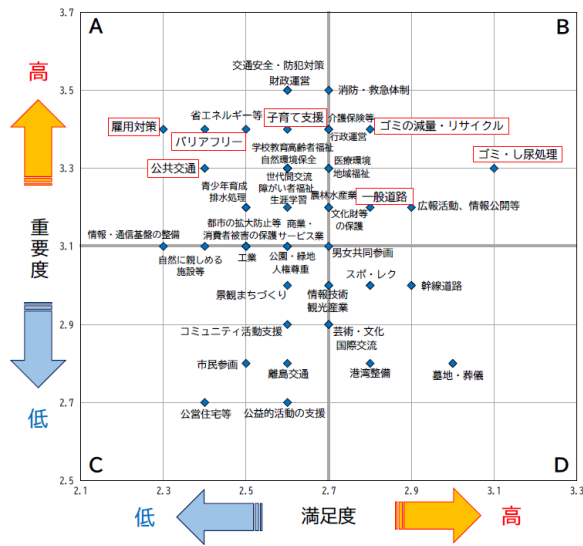
④丸亀市の取組の現状と今後について(前回との比較)

- ・ 前回調査時の重要項目(赤枠)については「ゴミの減量・リサイクル」「子育て支援」で満足度向上が見られ、そのほかの5項目では満足度低下が見られた。
- ・ 「C:改善分野」の項目については満足度・重要度ともに上昇傾向にあった。



項目	前回の調査		今回の調査	
	満足度	重要度	満足度	重要度
ゴミの減量・リサイクル	2.8	3.4	2.9	3.4
一般道路	2.8	3.2	2.6	3.3
バリアフリー	2.4	3.4	2.2	3.4
公共交通	2.4	3.3	2.1	3.4
ゴミ・し尿処理	3.1	3.3	3.0	3.3
雇用対策	2.3	3.4	2.2	3.5
子育て支援	2.6	3.4	2.7	3.5

■前回の調査結果
(参照:第二次丸亀市総合計画 後期基本計画)



市制施行20周年記念シンポジウム 意見のまとめ

公式ページは
コチラ



市制施行20周年の節目を記念し、自分の夢や丸亀市の未来について一緒に考えるシンポジウムを開催しました。

- ・若い世代の声も積極的に取り入れたまちづくりを進めていく。
- ・自分たちがどう変わっていくか意識し、一人ひとりが自分らしく挑戦できるまちに。
- ・大人がイキイキしてこそ、こどもたちは丸亀の未来を想像できる。



みんなが丸亀の未来

丸亀市市制施行20周年記念シンポジウム 「夢を叶える～未来を描く、わたしの一步～」開催

市制施行20周年を記念し、8月24日、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館で「夢を叶える～未来を描く、わたしの一步～」と題したシンポジウムを開催しました。会場には約170人の市民が集まり、熱気に包まれたひとときとなりました。

前半では、映画『ビリギャル』のモデルとして知られる小林さやかさんと、彼女の恩師・坪田信貴さんが登壇。当時の出会いを振り返りながら、小林さんが1年で偏差値を40上げて慶應義塾大学に現役合格した実体験をもとに、好奇心を持つことの大切さや自分を信じてくれる人を信じる力、そしてモチベーションを保つための工夫などを語りました。

また、参加者から「やりたいことが多すぎて、一つに集中すべきか、それとも並行して続けるべきか」の質問に対して、坪田さんは「どちらも100%で頑張る。死ぬ気で何かをやった経験こそが、一生の宝物になる」と力強いメッセージを送りました。



坪田 信貴さん(坪田塾塾長)と
小林 さやかさん(ビリギャル本人・AGAL代表取締役)



佐々原 悠馬さん
(さぬき広島の何でも屋さん)



後半は、市長と、さぬき広島に移住し地域に根ざした活動が続ける佐々原悠馬さんが加わり、パネルディスカッションを実施。「丸亀市がこうなったらいいな」というテーマのもと、それぞれの視点で市の未来について語り合いました。

佐々原さんは「一人ひとりが自分らしく挑戦できるまちに。そのためには、自分たちがどう変えていくかという意識が大切」と話し、坪田さんは「リーダーによってまちは変わる。温かな視点で若者の挑戦を支えてほしい」と提言。市長は「若い世代の声も積極的に取り入れたまちづくりを進めていきたい」と応じました。一方で、小林さんは「大人がイキイキと輝いていれば、子どもたちも自然と夢や目標を持ちやすくなる」と語りました。

参加者からは「勇気をもらった」「自分も何かに挑戦してみたい」といった声が寄せられ、市民の声が未来のまちづくりに生かされる、夢と希望に満ちたシンポジウムとなりました。

主催：丸亀市一般財団法人自治総合センター 後援：総務省

QUIDを利用したブロードリスニング 市民の声を施策に活かすための分析フロー



以下20カテゴリそれぞれに対する市民の意見を収集。

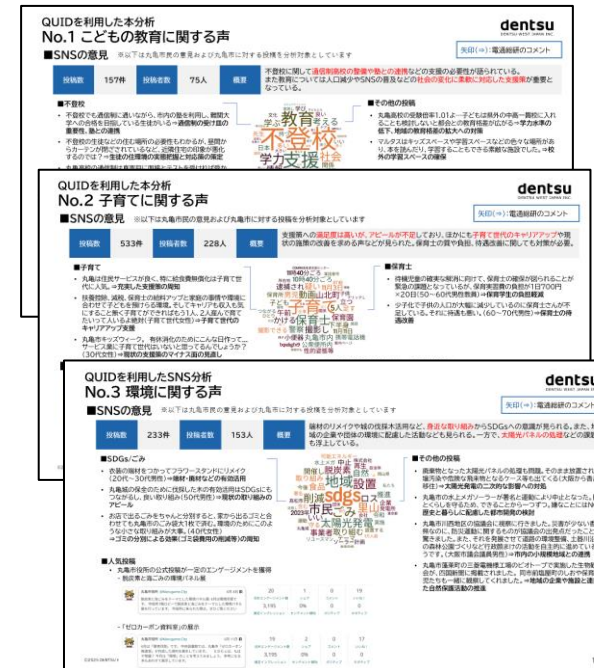
こどもの教育	地域資源
子育て	文化
環境	学び
土地利用と住環境	スポーツ
公共交通とインフラ整備	多様性・人権の尊重
災害への備え	男女共同参画社会
地域経済	デジタル化と広報
観光	市民活動
医療	地域コミュニティ
福祉	市の行財政運営

QUID MonitorでカテゴリごとにSNS分析、AIサマリなどの分析機能を使用して市民の声を分析



市民アンケート、若い世代の意識調査のアンケート、シンポジウムアンケート

カテゴリごとに定量・定性面から意見を集約しレポートとして作成



レポートの声を元に各カテゴリのKGIやKPIへ反映可能かを検討

- 例)
ICT整備についてネガティブな意見が300名超。
- 実際の声
- 学校でパソコンを配布されたが、こどもの授業の内容を確認するとパソコンはあまり活用していない。
 - 担任の先生のPCスキル不足。
 - プログラミングの授業を増やしてほしい。
- など

「ICT教育環境の整備と活用」施策に反映

KGI:
教員のICT活用指導力向上研修受講率を100%

KPI:
保護者向けICT教育説明会の開催回数・参加者数

QUIDを利用したブロードリスニング まとめ（全カテゴリーの分析結果概要）

項目	分析結果の概要
No.1 こどもの教育	不登校児童生徒への支援、教育格差の解消
No.2 子育て	子育て支援への高い満足度、子育てしやすいPRの必要性、保育士の確保と質の向上
No.3 環境	SDGsへの高い関心、太陽光パネルの問題、自然との共生
No.4 土地利用と住環境	空き家の解消に向けた住環境の支援、多様な主体と連携したえきまちエリアの活性化
No.5 公共交通とインフラ整備	バス等の公共交通機関の整備、高齢者の移動手段確保、地域に応じた交通施策
No.6 災害への備え	南海トラフ地震への備え、災害情報の発信・共有、市民の防災意識の向上
No.7 地域経済	えきまちエリアの活性化、地域コンテンツや特産品の魅力発信

項目	分析結果の概要
No.8 観光	観光客のマナー向上、観光地の環境整備、観光客の誘致に向けたPR
No.9 医療	高齢化社会に伴う医療サービス低下、暮らしと医療の連携、スポーツを活用した健康寿命の延伸
No.10 福祉	社会福祉の理解向上、高齢者支援、介護従事者の処遇改善
No.11 地域資源	市のシンボル丸亀城を中心とした観光振興、地域コンテンツのPRなどの滞在時間の延長
No.12 文化	文化芸術を広げるための施設不足、伝統文化の継承、イベントを通じた地域文化の醸成
No.13 学び	生涯学習センターの閉館に伴う多様な学習機会や居場所の確保、学びの成果の地域還元
No.14 スポーツ	豊富なスポーツ施設やイベントによる賑わい創出、多様な層へのスポーツ参加機会の提供

項目	分析結果の概要
No.15 多様性・人権の尊重	差別に関する理解促進、多様性や人権への理解を深める必要性
No.16 男女共同参画社会	仕事と家庭の両立、女性等へのアンコンシャスバイアス、女性のキャリアアップ
No.17 デジタル化と広報	行政サービスなど身近に感じるための情報発信、地域のICT人材の育成、自治体DX
No.18 市民活動	市民参加による地域課題解決とキャリアアップ、市民の声を反映したまちづくり
No.19 地域コミュニティ	若者の地域活動への参画促進、地域における交流機会の創出、自治会加入による負担
No.20 市の行財政運営	多様な層に合わせた行政運営、行政の情報発信とデジタル化

第3章

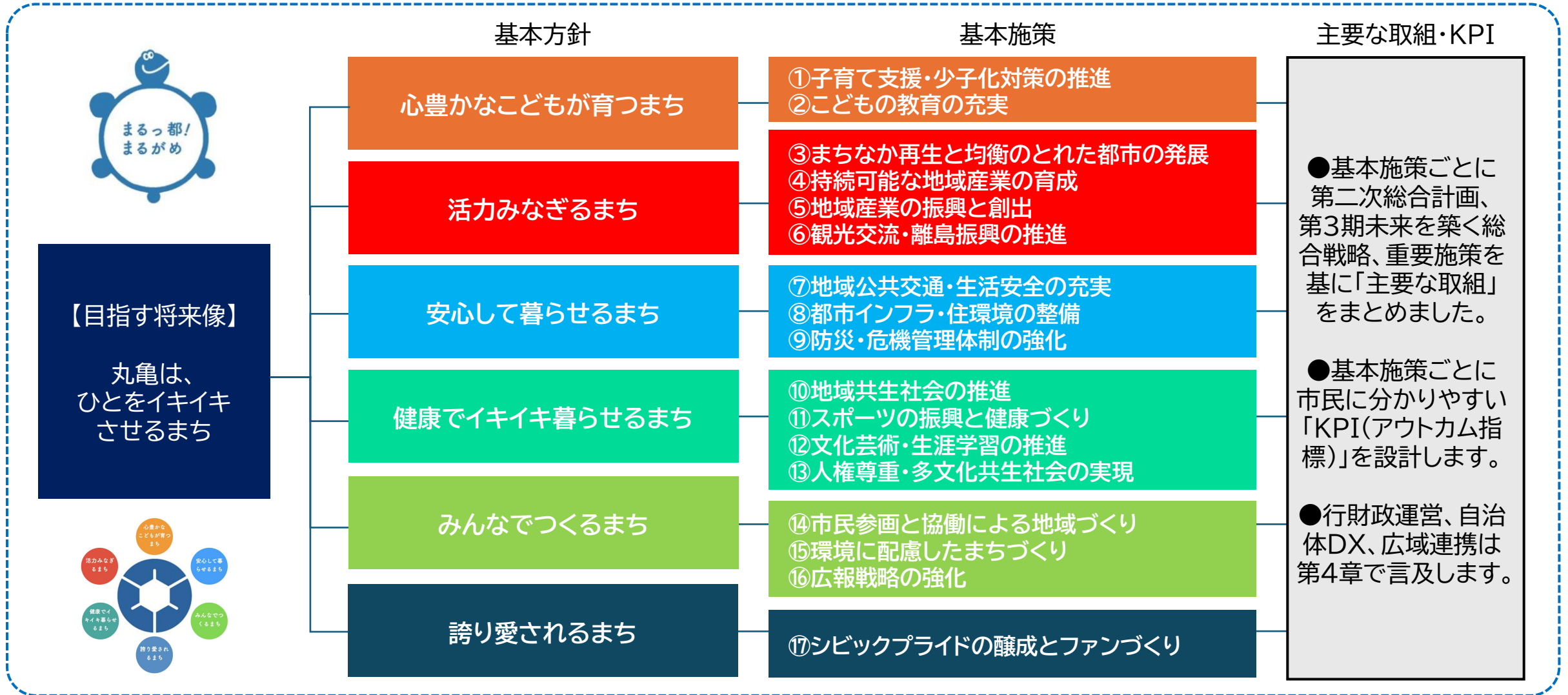
未来をカタチにするアクション (基本計画)

基本計画の主な変更点

- ・ ライフステージ別に施策マッピングを行い、市民分かりやすい表現（見せ方）を工夫します。
- ・ 第二次総合計画で31あった基本施策は、横串の視点を踏まえ、17の基本施策へ整理しました。
- ・ K P I は基本施策ごとに設定することとし、これまでのアウトプット指標をアウトカム指標に再設定します。
- ・ 基本計画を実現するための行財政運営の方針等については、第4章にまとめます。

計画の体系図（概要）

6つの基本方針に、17の基本施策、64の主要な取組を紐づけました。



計画の体系図（詳細）

目指す将来像

基本方針

基本施策

主要な取組

丸亀は、
ひとをイキ
イキさせる
まち

I 心豊かな子ども
が育つまち

1 子育て支援・少子化対策の推進

2 こどもの教育の充実

1 こども家庭センターを核とした子育て支援の充実

2 妊娠・出産・子育ての負担軽減

3 こどもや子育て世代の居場所づくり

4 少子化対策の推進

5 若者支援の充実

6 人づくり石垣プロジェクトの推進

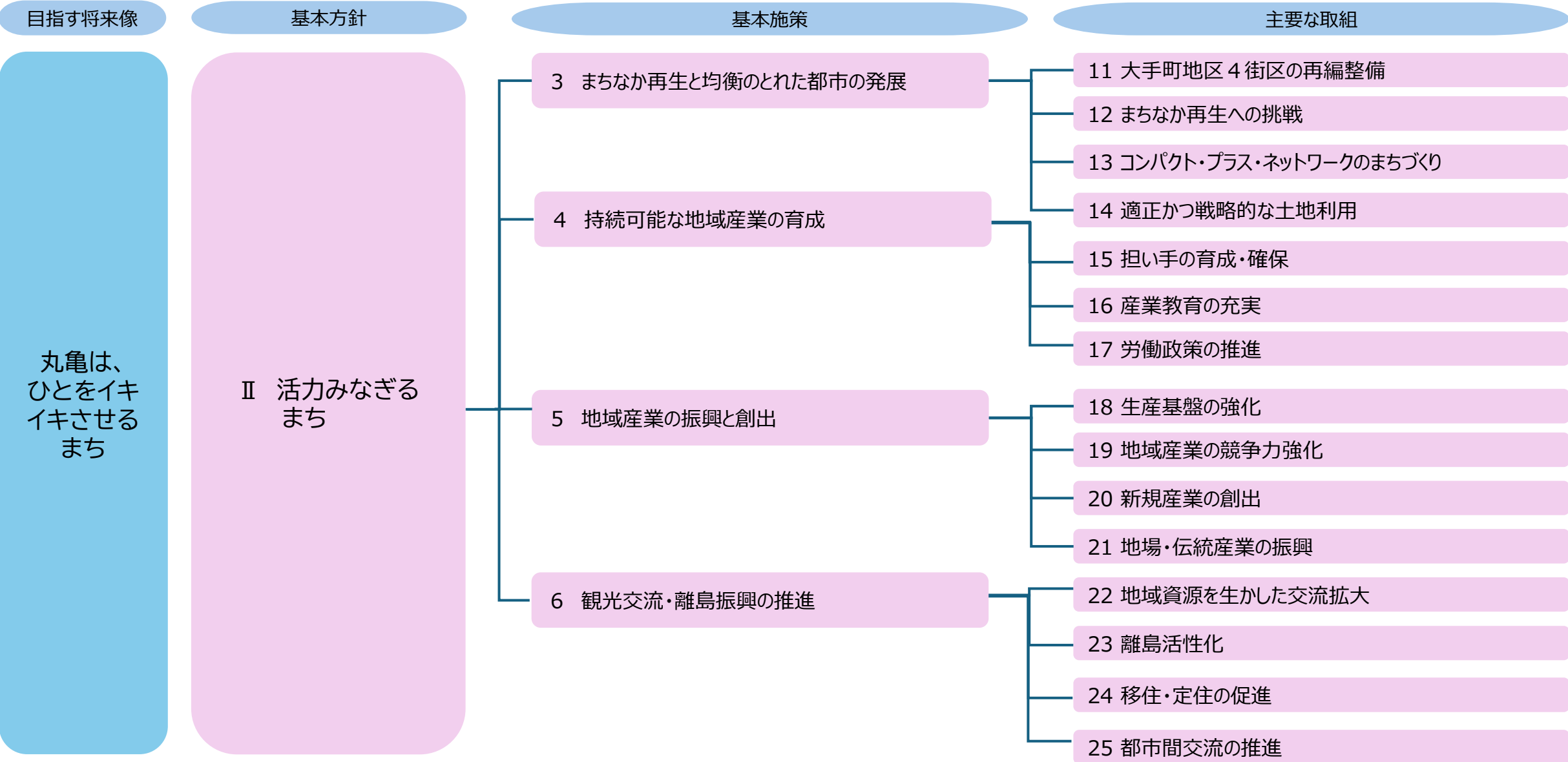
7 学校教育施設の整備

8 学校給食による食育の充実

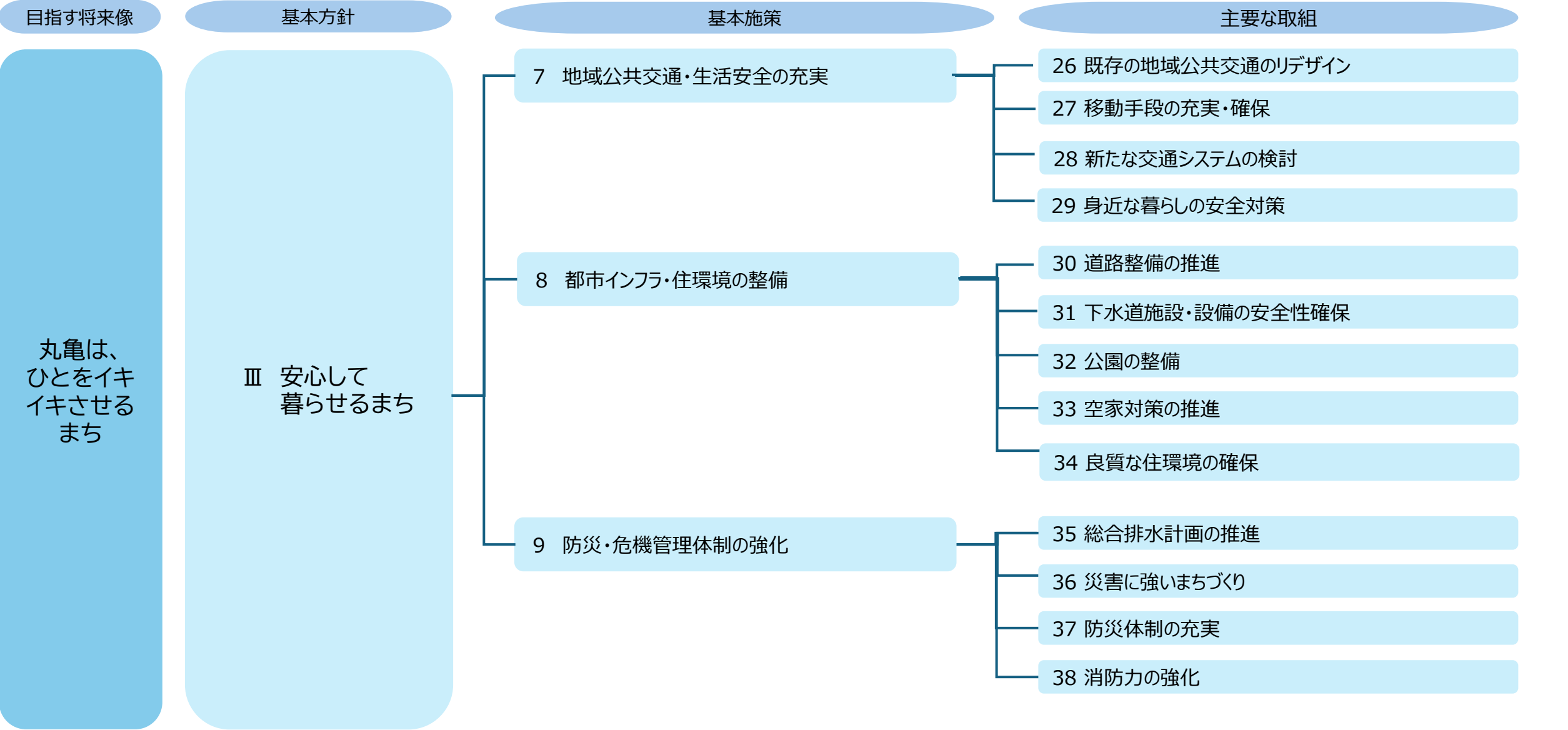
9 待機児童の解消

10 就学前教育・保育の充実

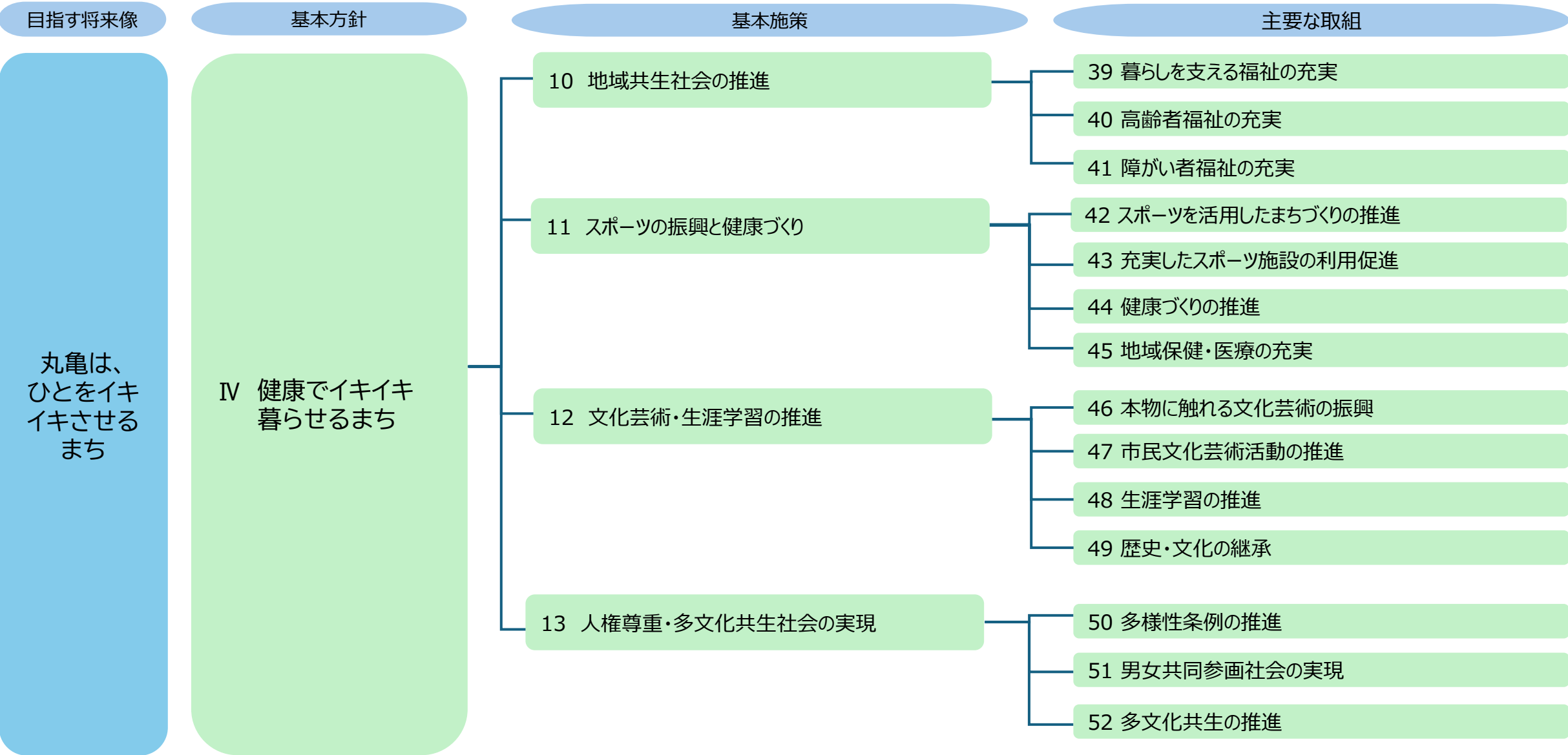
計画の体系図（詳細）



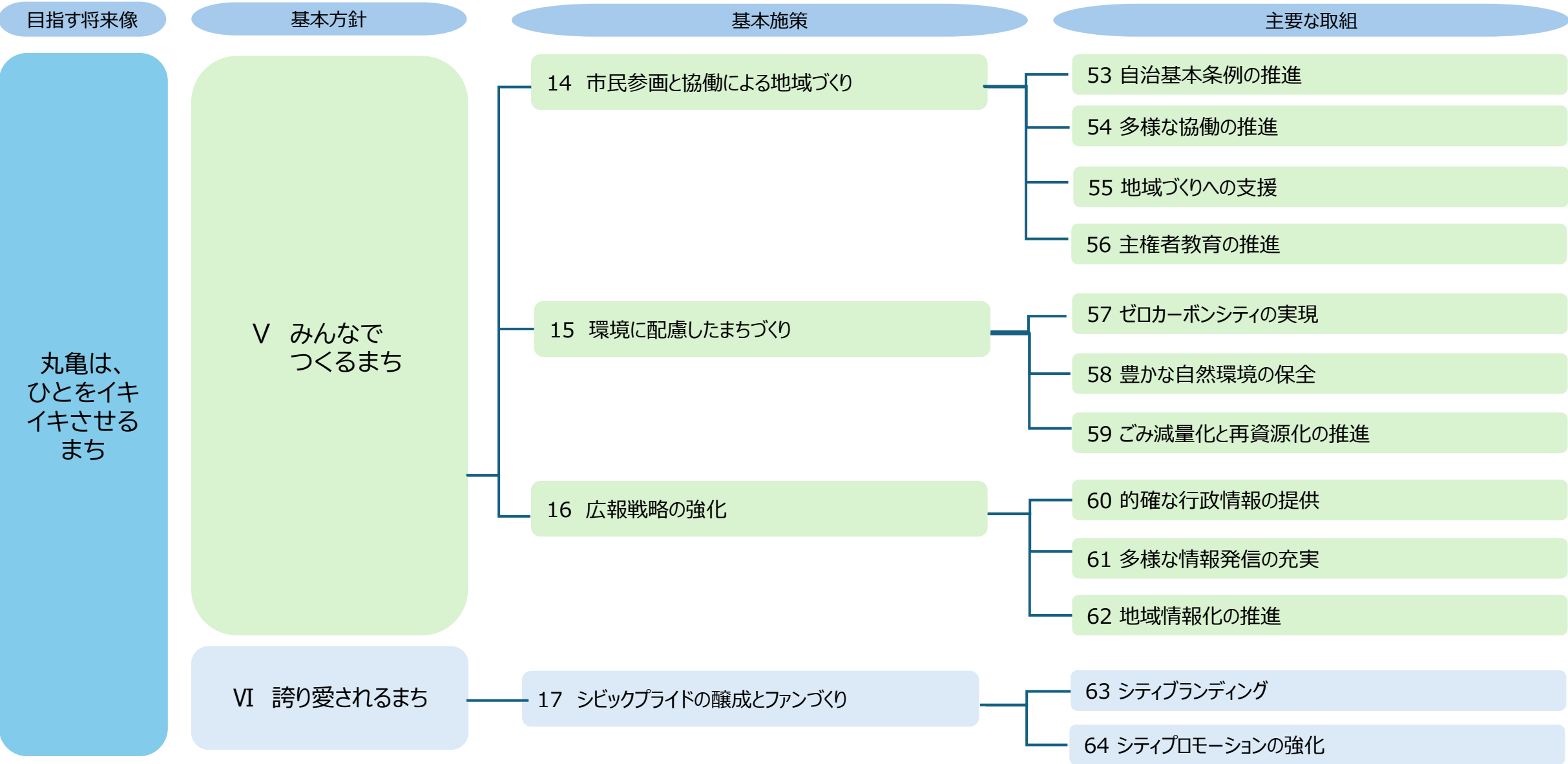
計画の体系図（詳細）



計画の体系図（詳細）



計画の体系図（詳細）



第4章 未来を支える仕組み

第3章の基本計画を実現していくため、社会変化に適応し、時代に即した行財政運営の方針を明示します。

トピック	内 容
時代に適した行政運営	●SDGs ●業務改善 ●人材育成
健全財政の堅持	●中期財政フレームなど財政見通し ●歳入確保・歳出抑制 ●ボートレース事業
自治体DXの推進	●丸亀市DX推進計画に基づく取組
広域連携の促進	●瀬戸内中讃定住自立圏 ●中讃広域行政事務組合 ●その他の広域連携

第5章 みんなで動かすまちづくり

総合計画に基づくまちづくりにどのように市民意見を反映させるか、計画の進行管理の手法等を明示します。

パブリックコメント募集

市民の声を更に反映させるため、骨子案の段階において、パブリックコメントを実施します。
忌憚のないご意見お寄せください(2月に2回目を予定)。

